

平成28年度 学校経営計画及び自己評価

1 めざす学校像

「人間教育をする進学校」

本校は創立107周年を迎え、建学の精神「報恩感謝」を基盤とした宗教的情操教育の良き伝統を継承し、男女を問わず、周囲に感謝して生きる喜びを感じ、何事に対しても前向きに取り組むことができ、グローバル化する国際社会で活躍し、貢献できる「品格と礼節」を備えた生徒を育成する。

- ① 建学の精神の涵養 ー宗教的情操教育を堅持し、我国の伝統と文化に基づく「品格と礼節」を備えた人間を育成するー
- ② 安心安全な学校づくり ー豊かな知識と考える力を備え、社会に貢献できる人間を育成するー
- ③ 確かな学力の育成 ー高い志を培うとともに生徒の進路希望を実現するー
- ④ 新たな歴史の創造 ー女子校から男女共学校へのスムーズな移行から、さらなる新たな伝統の創造へー

2 中期的目標

- 1 建学の精神の涵養 ー宗教的情操教育を堅持し、我国の伝統と文化に基づく「品格と礼節」を備えた人間を育成するー
 - (1) 「宗教」の時間を全コースに配置し、日々の朝礼・終礼、講堂朝礼を徹底し、花まつり、報恩講、了秀忌等の宗教行事だけでなく、すべての学校教育を通して建学の精神「報恩感謝」の念を育む。
 - (2) 挨拶、身だしなみ等伝統の生活指導を徹底し、社会人として必要なマナーを身につけさせる。
 - (3) 全職員への宗教研修を通して、本校の宗教的情操教育の在り方を常に確認・共有する。
- 2 安心安全な学校づくり ー豊かな知識と考える力を備え、社会に貢献できる人間を育成するー
 - (1) 本校独自の取り組みである「学びのNEW STYLE」の充実と教員の授業力の向上をはかる。
 - (2) グローバル化が進む社会で活躍できる人間の育成のために、授業におけるICT機器の活用を図り、国際理解教育を推進する。
 - (3) 教育相談体制、メンタルサポート体制を充実させるとともに、身体と心の健康づくりを進め、安心・安全な学校づくりを推進する。
 - (4) 生徒会活動・学校行事や部活動を通して、仲間とともに創造する喜びと困難を乗り越える力、リーダーシップを育む。
 - (5) 家庭への情報発信を密に行い、学校・家庭が一体となった教育を徹底する。
 - (6) 地域のこども園・小学校・中学校、自治会等との連携をすすめ、地域とともに生徒の成長を育むとともに、地域の誇りとなる学校をめざす。
- 3 確かな学力の育成 ー高い志を培うとともに生徒の進路希望を実現するー
 - (1) 高い志を育み、生徒が主体的に学ぶことができる教育をめざして、「人間教育をする進学校」という意識を定着させる。
 - (2) 教職員の授業力向上を最重要課題とし、公開授業・研究授業のほか適切に研修を取り入れる。
 - (3) 「特進コース」「国際コース」「進学コース」の生徒の実態を踏まえ、各コースのさらなる充実に努める。
 - (4) 大阪大谷大学等との高大連携をすすめ、高大一貫した教育体系のもと、生徒自らが意欲を持って学習する態度を育成する。
 - (5) オーストラリア海外研修・短期長期の海外留学制度創設等を通して積極的な国際交流を図り、豊かな語学力に裏付けられた国際感覚を育成する。
- 4 新たな歴史の創造 ー女子校から男女共学校へのスムーズな移行から、さらなる新たな伝統の創造へー
 - (1) 男女共学校としての東大谷の新たな歴史創造の意識を涵養する。
 - (2) 共学校として「人間教育をする進学校」の確固たる評価を確立する。
 - (3) 入試対策部を中心として、全教職員が一丸となった広報活動を行い、入学者定員を確保する。

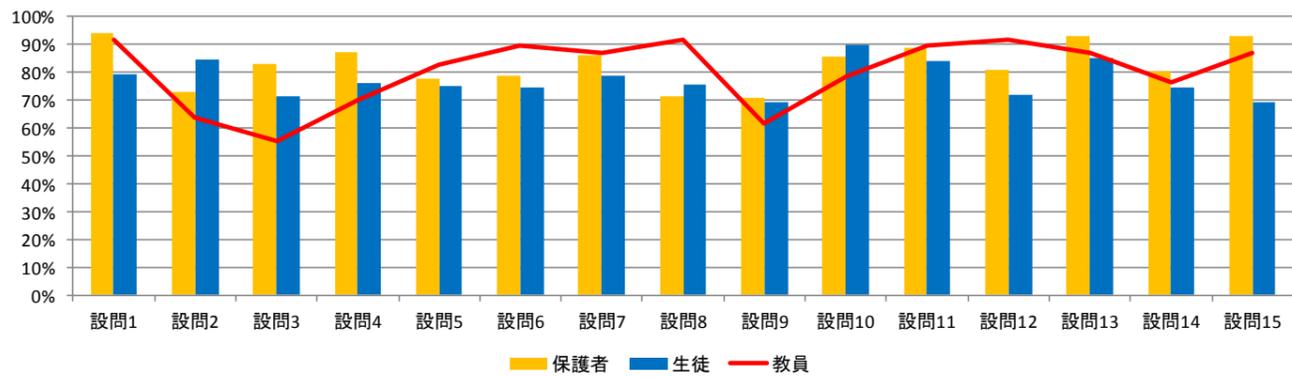
【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会における提言内容】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会における提言内容
<p>保護者からは、本校教育の柱である「建学の精神に基づいた特色ある教育」「学校行事への取り組み」等、本校教育方針とその実践において昨年以上の評価をいただいた。反面、「学校からの情報発信」「自ら学ぶ習慣」への評価は昨年より上昇したとはいえ、厳しい結果となった。</p> <p>生徒からは、「基本的な生活習慣が身につく生活指導」「学校行事への取り組み」で高い評価となっているが、「防犯防災等の安全対策」「自ら学ぶ習慣」「充実した学校生活」については昨年より急減し70%前後という厳しい結果となった。</p> <p>教員からは「防犯防災の安全対策」の評価が極めて低く、直近に校内自販機荒らしの被害があったことなどにより、「自ら学ぶ習慣」等とともに教員としての大きな課題であるといえる。また、進路指導関係についても教員と生徒の評価が大きく乖離している。今後「生徒による授業アンケート」を活用した授業力向上とともに、2020年問題に向けた取り組みを行うことが急務と考える。</p> <p>今回、学年別に比較してみたところ、2年生の評価が全体的に低く、昨年と比較しても低い評価となっている。学年として検討が急務である。また、今年の3年生は150名と昨年の750名と比較して進路指導等できめ細やかな指導ができたのとは対照的に、科目選択で開講できなかった科目があったこともあり、相反する評価となった。</p> <p>総合的評価としての設問15は「入学してよかった」の評価が保護者と生徒で大きく乖離していることは大きな課題であり、いかに生徒の意見を汲むことができるか、各学年で検討を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートで評価の低い設問3（予復習の自己評価）と他の設問の相関を調べる必要がある。また、否定的意見を持つ生徒をどう指導して行くかが課題である。 ・ICTの利用については生徒が知りたいときにすぐ使えるように、書籍や先生の授業ビデオをiPadに載せるなどが考えられる。 ・特進コースでは模試分析を通じて個々の生徒の弱点を把握しカバーする体制が必要 ・自学自習については、次の3点がポイントとなる。 <ul style="list-style-type: none"> ①生徒のモチベーション向上に学校全体で取り組む ②教師の人間力で生徒が興味を持ち感動できるような内容を授業で展開すること ③面談等を通じて東大谷を選んだ理由の確認や将来の目標を設定させること ・探究ゼミナールは新しい教育にかなっており、2020年問題には効果的でありさらに発展継続させることで東大谷の大きな特色となる。 ・ホームページを利用して保護者へのさらに積極的な情報発信を行う。 <p>課題のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生徒の自学自習の弱さ改善 ②アンケート結果のさらに細かい分析

学校評価アンケート結果

(肯定的評価とは、評価「そう思う」「多少そう思う」を指します)

		設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14	設問15
教員	そう思う	24	9	5	8	13	17	11	12	6	14	16	19	17	12	10
	多少そう思う	19	21	21	25	26	25	30	31	23	23	26	24	24	24	31
	あまりそう思わない	4	12	18	12	7	5	5	3	15	10	5	4	5	8	6
	そう思わない	0	5	3	2	1	0	1	1	3	0	0	0	1	3	0
	肯定的評価の割合 (昨年度)	91.5%	63.8%	55.3%	70.2%	83.0%	89.4%	87.2%	91.5%	61.7%	78.7%	89.4%	91.5%	87.2%	76.6%	87.2%
保護者	そう思う	212	108	148	166	139	129	170	84	132	160	176	134	216	162	242
	多少そう思う	178	196	198	198	186	201	188	207	165	199	196	196	174	167	147
	あまりそう思わない	23	98	60	45	83	80	50	103	104	54	43	68	28	68	27
	そう思わない	2	14	11	9	10	9	7	12	18	6	3	11	2	12	3
	肯定的評価の割合 (昨年度)	86.9%	67.3%	83.0%	87.1%	77.8%	78.8%	86.3%	71.7%	70.9%	85.7%	89.0%	80.7%	92.9%	80.4%	92.8%
生徒	そう思う	177	263	155	156	165	158	172	142	141	298	249	161	245	180	140
	多少そう思う	303	249	277	303	290	291	305	316	278	246	260	275	270	272	280
	あまりそう思わない	86	60	108	88	101	109	88	108	139	36	61	116	62	84	111
	そう思わない	38	32	64	57	48	46	39	38	46	24	34	52	27	68	73
	肯定的評価の割合 (昨年度)	79.5%	84.8%	71.5%	76.0%	75.3%	74.3%	79.0%	75.8%	69.4%	90.1%	84.3%	72.2%	85.3%	74.8%	69.5%



学校評価アンケート設問

		教員	保護者	生徒
設問1	学校運営	建学の精神に基づいた特色ある教育が行われている	学校は建学の精神に基づいた特色ある教育を行っている	学校は建学の精神に基づいた特色ある教育を行っている
設問2	学校運営	保護者への情報公開は適切でよく連携が取れている	学校からの情報公開は適切でよく連携が取れている	学校からの情報や資料は保護者に見せている
設問3	学校運営	防犯、防災、安全管理への対策が十分整っている	学校は危機管理や安全対策に努めている	学校はさまざまな安全対策をとっている
設問4	進路指導	各自の進路希望に応じた科目選択ができる	子ども自身の進路希望に応じた科目選択ができる	自分の進路希望に応じた科目選択ができる
設問5	進路指導	進路に関するきめ細やかな指導が行われている	学校は進路に関するきめ細やかな指導を行っている	進路に関するきめ細やかな指導が行われている
設問6	進路指導	進路に関する十分な情報を提供している	学校は進路に関する十分な情報を提供している	進路に関する情報は十分に知らされている
設問7	学習指導	生徒は熱心に授業を受けている	子どもは熱心に授業を受けている	授業中は集中することができている
設問8	学習指導	授業の指導方法や内容に工夫をしている	授業の指導方法や内容に工夫がなされている	先生は授業の指導方法や内容に工夫をしている
設問9	学習指導	生徒に自ら学ぶ習慣を身につけさせている	子どもは自ら学ぶ習慣が身につけてきた	積極的に学ぶ習慣が身につけてきた
設問10	生活指導	基本的な生活習慣が身につく生活指導が行われている	基本的な生活習慣が身につく生活指導が行われている	挨拶や礼儀、登下校時のマナーなどをきちんとしている
設問11	生活指導	生徒間の好ましい人間関係の構築に努めている	生徒間に好ましい人間関係が構築されている	生徒どうしの人間関係は良好である
設問12	生活指導	生徒の悩みや問題に対して丁寧に対応している	子どもの悩みや問題に対して丁寧に対応している	先生は生徒の悩みや問題に対して丁寧に対応している
設問13	特別活動	学校行事に積極的に取り組ませている	子どもは学校行事に積極的に取り組んでいる	学校行事に積極的に取り組んでいる
設問14	特別活動	部活動の指導には熱意をもってあたっている	教員は部活動の指導には熱意をもって当たっている	部活動の指導では先生の熱意を感じる
設問15	総合評価	生徒は充実した学校生活を送っている	子どもを本校に入学させてよかった	本校に入学してよかった

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 建学の精神の涵養	(1) 宗教的情操教育による豊かな人間性の涵養 ①③⑤ (2) 伝統の継承 ②④	① 宗教担当教員と担任が密に協力して、朝・終礼、講堂朝礼指導を徹底する。 ② 共学1期生750人が卒業し、全校生が650名と昨年の1/2となった。花まつり・報恩講等、本校の伝統行事を学校講堂にて実施する。宗教的情操教育を深めるとともに愛校精神を涵養する。 ③ 宗教委員に宗教行事の運営に参画させる。 ④ 4月に1年生の宿泊研修を実施し、東本願寺参拝を組み込み、東大谷高校のルーツを体得させる。 ⑤ 教職員への宗教研修を年2回実施し、教職員が建学の精神に共感した意識を持って生徒の指導を行う。	ア 管理職による点検 ①③⑤ イ 行事の生徒感想文 ②④ ウ 長期休業後の保護者アンケート ①② エ 学校教育自己診断 ①⑤	① 朝終礼の徹底を本校教育の出発点とする意識を持ち全教員で取り組んできた。学校教育自己診断の評価は、保護者94.0%、生徒79.5%で昨年より保護者7.1pt上昇。教員91.5%との差を埋める指導を充実させることが必要である(△) ② 「花まつり」「報恩講」を本校講堂にて実施した。本校の伝統と格式を共有、学校への帰属意識を涵養できた。生徒感想文報告集「聞思」を発行。各行事の意義をよく理解し、本校生の自覚を持つ機会となったとの感想が多い。(○) ③ 講堂朝礼の導唱が全員男子の学年や、生徒による伴奏の学年もあり、男女を問わず生徒の参画する朝礼になりつつある。(○) ④ 入学直後の1年生宿泊研修にて、本校生の自覚・本校教育方針・生活指導方針を徹底することができたとして生徒感想文に多い。(○) ⑤ 理事長を講師に職員宗教研修を復活。「建学の精神」をテーマに原点に立ち返った指導観を共有できた。(○)

<p>2 安心安全な学校づくり</p>	<p>(1) 「学びの NEW STYLE」の推進 ①② (2) 自律的生活習慣の確立 ③④ (3) マナー指導、しつけ教育の徹底 ④⑤ (4) 生徒会活動・部活動の活性化 ⑥⑦</p>	<p>① 新たな取り組み「学びの NEW STYLE」の指導法の継続的点検 ② ICT 機器の教育活用法の実践例蓄積 ③ メンタルサポート体制の強化 ④ 登下校指導、服装指導等、生活指導部を中心に全教職員で取り組む ⑤ 防災、薬物乱用等に対する意識の向上の教育を実施する。 ⑥ 生徒会活動・部活動のさらなる活性化を図り、学校への帰属意識、愛校心を育む ⑦ 生徒主体に地域活動に積極的に参加する</p>	<p>ア 「探究ゼミナール」プレゼンテーション大会生徒感想・実践報告 ①② イ 「薬物乱用防止」「SNS の使い方」についての講演実施 ⑤ ウ 長期休業後の保護者アンケート ③④⑤ エ 学校教育自己診断 ⑤⑥⑦ オ 部活動活動実績 ⑥⑦ カ 管理職による点検 ⑥⑦</p>	<p>① 「探究ゼミナール」3 年目。指導マニュアルが完成。3 月にプレゼンテーション大会実施。生徒のプレゼンテーション表現力は昨年以上に向上。実践報告集完成 (○) ② 校務分掌に「情報教育部」を新設。今年度前半は学校 ICT 機器管理に忙殺されたが、後半から職員研修実施等、次年度に向けた対応ができるようになってきた。(◎) ③ 生徒数が半減したこともあり、きめ細かい対応が可能となった。(○) ④ 登下校指導は担任外教員を配置、地域住民からの評価いただく。毎月の頭髪服装検査等きめ細かい指導を継続した。(○) ⑤ 防災避難訓練・薬物乱用防止教室等も継続実施した。学校教育自己診断「情報発信」の保護者評価が 72.4%と 5.1pt 上昇するも、震災発生時の備蓄等の対応が今後の課題である。(△) ⑥ 文化祭では PTA とともに東日本大震災支援活動を行うなど、新たな取組も活発化した。学校教育自己診断「積極的に学校行事に取り組む」でも保護者(92.8%)の評価は高いが、生徒評価との乖離がある。さらなる学校行事・部活動の活性化が課題。(△) ⑦ 地元の健全育成協議会等の地域の様々な行事に学校・部活動が参加し、地域連携が強化された。今後も新たな取り組みに参加する。(○)</p>
<p>3 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 主体的な学習態度の育成 ①②③④⑤</p>	<p>① 「10 年未来プロジェクト」「探究ゼミナール」等、本校独自のアクティブラーニング学習の充実を図り、学ぶ意欲を育む。 ② 生徒による授業アンケートの充実と効率的な活用を図るとともに、授業力の向上を図る ③ 男女共学化による各コース生徒の意識変化を踏まえ、各コース内容の充実を図る ④ 高大連携を強化し、学ぶ意欲を育み、進路希望の明確化を図る ⑤ 国語力強化の一環として、「朝の読書」の時間を充実させる。</p>	<p>ア 「探究ゼミナール」プレゼンテーション大会実施後の生徒評価 ① イ 「探究ゼミナール」成果報告書の作成 ① ウ 授業アンケート ② エ 学校教育自己診断 ①③④ オ 管理職による点検 ③④⑤</p>	<p>① 「自ら学ぶ姿勢が身についた」についての生徒評価(69.4%)が昨年より 2.6pt 低下。特に現 2 年生が低くなっており、指導法の再検討が必要。(×) ② 生徒による授業アンケートを年 2 回実施。評価を受けて各教員から振り返りシートの提出を義務化。その後、教員授業参観週間を実施した。2 回目に評価が改善された者 20/67 人。(△) ③ 共学化により進路希望が多様化している。学校教育自己診断「きめ細かい進路指導」では保護者 77.8%生徒 75.3%と昨年の評価より 7.8pt, 4.2pt の上昇となった。3 年生が少人数であることもあり、昨年以上にきめの細かい指導ができた。(○) また国際コースにおいては 1 年および 3 ヶ月の NZ 留学制度を創設した。1 年生 66 人中予想をはるかに超える 18 名が 1 月に出発。今後、留学希望者増への対応急務。(◎) ④ 関大・近大・理化学研究所との連携講座実施。さらに、大阪大谷大学との新たな高大連携協議会を発足させ薬学部 6 年本校 3 年の 9 年一貫薬剤師育成を可能とする連携を協議始める。(○) ⑤ 朝の読書から一歩進めた PISA 型「読解力」育成プログラムを将来検討委員会にて検討開始。(△)</p>
<p>4 新たな歴史の創造</p>	<p>(1) 新たな歴史の創造 ①②③</p>	<p>① 進学希望者に対する今までの方法にとらわれない、国公立大 20 名を目標とする進学指導体制づくりを行う ② H29 年入学者募集体制を強化し、定員確保に向けた活動を徹底する ③ 全国の教育改革の動向を把握し、本校の指導体制の改善を行う</p>	<p>ア 生徒感想 ① イ 大学受験指導講習実施 ① ウ H29 年度入学者数 ② エ 学校教育自己診断 ① オ 管理職による点検 ①②③</p>	<p>① 現 3 年生が 148 名（昨年 750 名）と少人数であったが、センター試験受験者 40 名、国公立大 11 名（内現役 7 名）と、大いに健闘したがまだまだ指導力向上が課題。(×) ② 堺市・和泉市を中心とする大阪南部への広報活動を強化し、H29 年度は募集定員 280 名に対して 800 名を超える志願者数（昨年比+7.3%）となった。(○) ③ 昨年創設した「将来構想委員会」と新設情報部が連携して、2020 年問題に対する教育課程のスムーズな運営を行い、また授業改善に向けた職員研修（3 回）を実施した。(○)</p>

4 次年度改善に向けて

<ul style="list-style-type: none"> ・男女共学化 3 年を経て初めて泉ヶ丘校舎から卒業生を出した。この 3 年間の経験をもとに、新たに「人間教育をする進学校」を学校経営方針に掲げ学校改革を進めていることについて、学校協議会委員から評価をいただいている。しかし、生徒の多岐にわたる進路希望に応じた進学指導体制の充実が課題であり、将来構想委員会のもとに「ICT 機器活用プロジェクトチーム」、「2020 年問題プロジェクトチーム」を創設し、教員の指導力向上に向けた実践的な対応を進める。 ・「建学の精神」に基づく宗教的情操教育伝統を堅持しつつ、学校評価アンケート設問 1「建学の精神に基づいた特色ある教育が行われている」について、生徒の肯定的評価が 90%（今年度 79.5%）に改善することを目標に、改めて本校創立の原点に戻り教職員研修を計画する。 ・学校協議会から指摘された課題①「生徒の自学自習の弱さ改善」については、来年度より自主学習支援ソフトを導入した ICT 機器を活用し、普段の授業と連携させることで家庭学習と授業を一体化させる指導体制を進め、学校評価アンケート設問 9「生徒に自ら学ぶ習慣を身につけさせている」を 80%（今年度 69.4%）にする。 ・留学制度創設初年度。予想を超える留学希望者があった。来年度以降、20 名を超える希望者にも対応できる海外提携校の開拓を行う。 ・本学園の関連学校である大阪大谷大学との連携を進め、大学の有する学部の特徴を生かした 9 年一貫薬剤師育成、7 年一貫教員育成等の高大連携教育体制の検討を行い、平成 30 年度実現に向けて協議を進める。 ・学校評価アンケート設問 3「防犯、防災、安全管理への対策が十分整っている」の教員の肯定的評価を 80%（今年度 55.3%）になるよう、耐震設計された新しい校舎であるが、職員全体でチェック体制を再検討し研修・防災訓練を計画する。
--